

# 「はだしのゲン」削除問題とひろしま平和ノート」学習会に約60名が参加！

「今の広島市の図書館問題や核抑止論に固執した広島ビジョン、突然表明されたパールハーバー国立記念公園との姉妹公園協定締結などすべてつながっているようで心配でたまらない。けれど、あきらめずねばり強く運動していこう」とあいさつする

藤川 晴美さん



7月9日(日)にロードビルを会場に『はだしのゲン』削除問題とひろしま平和ノート』と題した学習交流集会を「広島市の文化の未来を考える教職員会」(以下、「未来を考える会」と市教組(全教)の共催で開催しました。当日は大雨警報が出るほどの悪天候の中、約60人も参加者で会場が埋め尽くされ、この問題に対する関心の高さが分かりました。

はじめに「未来を考える会」の代表の藤川さんが挨拶をし、その後、井村さん(広島教育研究所)、辻さん(県歴史教育者協議会)による問題提起を含めた学習を行いました。次に学校現場(小学校:亀本さん 中学校:山本さん)の報告のあと、会場からの質問や意見・報告が出され、学習が深まりました。最後は市教組(全教)委員長の藤中さんが「学習を続けながら、あきらめずに声をあげていこう」と力強く呼びかけました。

広島市は今年度の「ひろしま平和ノート」から「はだしのゲン」と第五福竜丸の記述を削除しました。このことについて、全国からたくさんのおかしい」という声が届いています。



「新しい平和ノートでは、原爆を落とした国名や憲法9条、日本の戦争加害、核兵器廃絶に向けた平和運動などが書かれていない」と今の平和ノートを批判する広島教育研究所員の井村 誠さん。

被爆地ヒロシマは、世界に向けて「核兵器反対」の声を発信する使命があります。「はだしのゲン」という作品は、その原爆の惨状を世界中の幅広い世代に伝える類を見ない作品です。その「はだしのゲン」を削除する広島市教育委員会の見識が問われています。市教委は『はだしのゲン』の意義を否定するものではない」としていますが、削除の理由になっておらず、多くの疑問がぬぐえませんが、

また、第五福竜丸については、全国で3200万筆を超える原水爆禁止署名運動に発展し、1955年、第1回原水爆禁止世界大会の成功、そして、2017年の核兵器禁止条約成立につながったものです。これについて、市教委は「福竜丸は市立中の社会の教科書でも取り上げており、授業で関連付けて指導できる。」としています。核兵器廃絶を願うヒロシマの気持ちに寄り添う判断とはなっていません。

今回の学習会では、ひとつひとつの「おかしい」が、つながっているということ、私たちが読み取る力が必要だと学ぶことができました。



「平和ノートの指導書に『外務省のHPを参考に』とあり、ここには大きな問題がある。日米の核抑止を前提とした核軍縮の考え方に児童・生徒を誘導しようとしている絵が見える」と痛烈に批判する県歴史教育者協議会の辻 隆広さん。



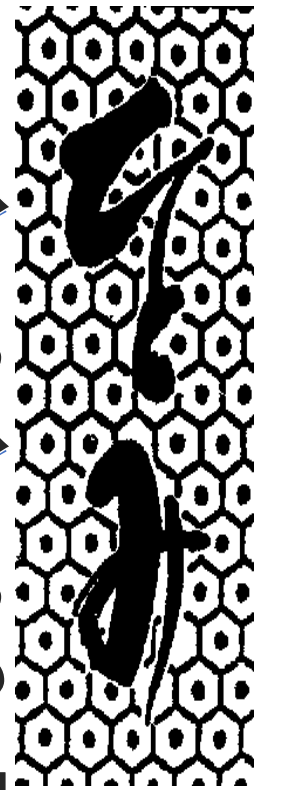
「学習を続けながら、あきらめずに声をあげていこう」と力強くあいさつする藤中委員長



中学校現場の様子を語る山本さん



小学校現場の様子を語る亀本さん



広島市教職員組合 (全教)  
No. 6  
2023. 7. 13  
  
全教広島HP

それを読み取る力が必要！

市教委交渉日程決まる！  
**9月7日(木) 18:30**  
中区役所6F教育委員室

## 【参加者の感想から】

- 現場で仕事するだけでは、聞けない話や意見を聞くことができ、貴重な機会でした。ありがとうございました。これからの教育の担い手として、できることを考えていきたいと思えます。
- 聞けば聞くほど、行政の押し付け、思想の貧困化、子どもの人権の軽視を情けなく、悲しく思う。G7然り、平和ノート然り、公園問題然り、被爆者や世界の安全、人権向上に取り組む多くの人々を裏切る暴挙である。私たちは決して負けない。ごまかされない。との思いを強くした。
- 市の行政が、子どもたちの教育にかかわっていることが、怖いことだと思いました。市民の方の関心が高いことが、希望だと思うし、また、声を上げていったことで、変わっていくことを切に願っています。
- はだしのゲン、第五福竜丸削除→姉妹公園協定まで核兵器廃絶から、核軍縮(核抑止論)の立場へ。広島市政が大きく転換していく経緯がよく分かった。
- 教職にある方、関心のある方のご意見を多く伺えて有意義だった。「平和ノート」「平和教育」などの内容、取り組みが大きく後退しているのは、日本の再軍国主義化、アメリカとの軍事協力推進のための教育利用、国民の無関心化への誘導だと思っています。これに対し、反対意見を述べることは重要だが、改善策を強く訴え、さらに開かれた会合、集会に必要性を感じます。もし、そのような動きがあれば、協力は惜しみません。
- 誰が落としたのか？何も言わなければ伝えていけない。子どもは知らない。ふわっと伝えずに、はっきり正しいことを知らせるべきです。後に続く人たちに伝えてほしい。
- 戦争の準備は子どもの教育からと思いますが、最近の政府・広島市の平和教育などを見ると、よく分かります。美甘さんの本を読んで、胸が悪くなったのは、私だけだと思ったら、やはり、「許す心」を中心にされているのですね。そして、「岩田さんの…」は「家族」を中心ですね。これは「道徳教育」です。私は伝承者として、国内を回っていますが、「原爆を落とした国は？」と、質問すると「中国、北朝鮮」と、言います。「アメリカだよ。」と言うと、「エーッ」と、言うのです。もっと広めなければ…。
- 昔、子どもが幼かったころ、「はだしのゲン」の映画を観せようと思って、会場に入ったら、怖がって大泣きしたことを思い出します。「ゲン」の学習などは、その発達段階に応じることは大事ですが、「ゲン」や「第五福竜丸」などの学習を削除することは、**反戦・反核の市民の思いを否定する怖いことになると思います**。心に残ったことは、(新)「ひろしま平和ノート」の4つのnothingです。このnothingから日本政府の立場として、アメリカの核の傘の下で、日本の安全保障を守りたいために、核の禁止は認められないんだなあということ。これからの日本も戦争に加担していこうという、腹の中の黒い思いが見えるということを感じました。
- 本当に学習になりました。ひとつひとつの「おかしい」が、つながって、政治や社会が動かされていくということを、**私たちは読み取る力が必要だ**と思います。そして、あきらめないこと！何度でも、要望していくことが大切です。
- 「はだしのゲン」削除問題の奥は深いと思った。ひろしま平和ノートを始めて知った。子どもが使っていたはずなのに。ある意図によって作られていると考えると、未恐ろしい気がした。ヒロシマだからこそ、できる平和教育があると、今日の話聞いてすごく思った。
- 60名ぐらいのたくさんの参加者が集い、平和教育について、皆で考え、意見を交わすという取り組みは、とても大切なことだと思います。現場の問題としては、「平和ノート」がどっちに転ぼうと、**与えられたものをやるだけの状況が、怖い**と思います。

# 2023年度 市教委交渉日程決まる！ 9月7日(木)18:30～ 中区役所6F教育委員室

これは、5月25日に提出した教育要求書に対する市教委からの回答を受けての交渉です。提出の際、藤中委員長は「教職員の働き方こそが、子どもたちにゆきとどいた教育をすすめるための第一条件。少しでも働き方改革が前進するための要求です。」と小田教職員課調整担当課長に提出しました。



いま全国的に教育職の“ブラック職場”が話題になっています。あまりの忙しさに子どもの様子に丁寧に寄り添うことが困難な状況の中、先日文科省は「子どもたちの悩みや困難を早期に把握することをめざす」とし、夏休み明けの子どもの自殺を防ぐ手立てとしてタブレット端末を有効に活用するように通知を出しました。【「夏休み明けSOS 一人一台端末で察知」(朝日新聞:7/7付)】

私たち市教組(全教)は、一人ひとりの教職員がゆとりを持つことこそ優先すべきと訴えています。子どもの複雑な微妙な心の変化を、タブレット端末では決して測ることはできません。

今回の交渉で、少しでも実感の持てる働き方になるよう訴えていきます。

皆さんにもぜひ参加していただき、現場の声を直接届けましょう！

## 現場の声を届けましょう！

広島市教職員組合(全教)

〒732-0052

広島市東区光町2丁目 9-24 広島ロードビル 403

TEL082-264-7850 FAX082-261-1912

e-mail [zenkyo@enjoy.ne.jp](mailto:zenkyo@enjoy.ne.jp)



←QRコードからメール(分会名と名前を記入)を送ってください。「市教組メールネット」に登録します。情報をいち早くお知らせできます。